

## 二次流通の新しい風

「CASH」というアプリを知っているだろうか？  
手元にあるいらぬものの写真を撮り、アップする。そうすると、その写真を自動的に判別して、すぐにお金を振り込んでくれる。モノをすぐにお金に変えてくれるアプリだから、名前も現金を意味するCASHだ。

このアプリ、リリースしてすぐに話題になり、圧倒的に使われた。そして、すぐに60億という値段でDMMに買収された。さらにすごいのが、創業者の光本さんは、結局、買い戻してまたオーナーとして経営している。このことは、ベンチャー界隈では非常に話題になった。

今回このアプリのことを僕が紹介したいと思ったのは、これが革新的ではないからである。ネット上の多くのサービスを自分には理解できない不思議なものとして捉えている人が多くいるかと思う。しかし、人間の営みは、簡単には変わらない。人が欲するものは、ネット時代になっても大きくは変わらない。

質屋や二次流通の世界で課題となっていたのは、常に買う人が足りないではなく、商品が足りないだった。もっと沢山の商品を簡単に仕入れることができたなら、大きくなるのに、それが叶わない。

文 佐渡島庸平

text by Yohei Sadoshima

CASHは、ブックオフの買い取りアプリと何一つ変わらない。多くのユーザーは、売りたいのではなく、現金が欲しいのだ。ユーザーの欲望に忠実になってサービスを作ったのだ。ネット上のサービスの多くは、リアルで有望なビジネスを置き換えて、より便利にしたものがほとんどだ。

置き換えにすぎない、そう考えてネットベンチャーを観察すると、急に今までわからなかったことが理解できるようになるかもしれない。

先ほど僕は、CASHは革新的ではないと言った。商流を見てみると、王道であり、革新的ではない。しかし、効率的にして、利益を出すために、思い切った戦略をとった。ユーザーを信頼するという戦略だ。その戦略は、革新的であり、大企業が新規事業をするときには絶対に真似できないものだった。

今回は、その信頼をテーマに話そうと思う。

## Profile

株式会社コルク 代表取締役  
2002年講談社入社。週刊モーニング編集部にて、『ドラゴン桜』（三田紀房）、『働きマン』（安野モヨコ）、『宇宙兄弟』（小山宙哉）などの編集を担当する。2012年講談社退社後、クリエイターのエージェント会社、コルクを創業。著名作家陣とエージェント契約を結び、作品編集、著作権管理、ファンコミュニティ形成・運営などを行う。従来の出版流通の形の先にあるインターネット時代のエンターテインメントのモデル構築を目指している。

